

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	59	学校名	高山工業高等学校
------	----	-----	----------

学校教育目標 (教育方針)	確かな学力、健やかな身体、豊かな心を育み、社会の変化に対応可能なゆるぎない知識や技術で、地域の将来を担うエンジニアリーダーを育成します。		
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を育てたいか【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・自信と誇りを身に付け、自分で考えて行動し、向上心を持って技術で地域社会を支える生徒 ・他者を尊重し他者と協働して、良好な人間関係を築き、社会から信頼される生徒 ・地元を愛し、積極的に課題解決に取り組み、地域や社会に貢献できる生徒 	
	生徒をどう育てるか【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を発見し解決する力を育成するための、「基礎的・主体的」な学びの推進 ・地域素材や地域資源を生かし、地域と連携した「体験的・実践的」な学びによるキャリア教育の充実 ・生徒一人ひとりの個性を伸ばし、ものづくりを通じた専門的な学習による「先進的・探究的」な学びを実現するカリキュラムの編成と、個に応じたきめ細やかな指導の実施 	
	どんな生徒を待っているか【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりに興味があり、仲間と協力しながら共に知識を深め技術を高める意欲のある生徒 ・自ら将来を切り拓く目標を探り、その実現に向かって積極的にチャレンジする生徒 ・専門性を生かした地域と連携した活動、生徒会活動や部活動等に積極的に参加し、活気ある学校を築こうとする意欲のある生徒 	

学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識や技術で地域に貢献する専門的職業人に必要な、基礎学力の確実な定着 ・ICTを効果的に活用した、個別最適化された学び・授業改善の実践 ・個に応じた共感的な指導及び外部と連携・協働した支援による、より良い人間関係を構築できる生徒の育成 ・「ものづくり」を通じた地域連携活動の推進と、地域と一体となった専門的職業人の育成 ・地域や小・中学生に対する、本校の特色や魅力を伝える広報活動 		
----------	---	--	--

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・自信と誇りを身に付けた将来の地域産業を担う専門的職業人育成のため、地域や産業界と連携した活動を推進する。 ・地域に工業高校の特色と魅力を発信し、更に地域に必要とされる学校を目指す。 ・教職員の資質・指導力の向上に資する研修を充実するとともに、働き方改革、働きやすい職場づくりを推進する。 	
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した個別最適な学びによって、学習意欲を高め主体的な学習態度を育成する。 ・少人数・習熟度別授業の実施や、学習状況や進路に応じた教科指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・地域連携による多様な課題解決学習によって、協働的・探究的な学びを推進する。 	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のコミュニケーション能力や自己表現力等の人間関係形成能力を育成する。 ・教育活動全般を通して規範意識を高め、豊かな心や望ましい道徳性、自己指導力を涵養する。 ・発達状況や特性に応じた指導に努め、外部の専門機関等と協働し、充実した生徒支援を実施する。 	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的・実践的な活動を通じて、自己の能力・適性について理解を深めるキャリア教育を推進する。 ・外部資源を活用した工業の高い専門性を育む教育を推進し、将来の産業を担う専門的職業人を育成する。 ・多様な進路実現能力に対応した支援を推進する。 	

年度目標				年度末評価(自己評価) ○成果 ▲課題			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学校経営	地域資源の活用や、産業界と連携した実践的・体験的な教育活動	13	施策Ⅱ-13 地域の担い手総合戦略事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が商品開発・製造・販売・改善を行うサテライトキャンパス事業(通年実施) ・ものづくり体験をサポート(小学校・地域) ・新科目「デザイン実践」や学校設定科目「匠」の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○サテライトキャンパスの学びにより「協働力・柔軟性・交渉力」が身についた(生徒アンケートより) ▲「デザイン実践」の学びを取り入れた「課題研究」授業の実践(来年度以降) 	B
	80周年行事と関連事業の実施	11	施策Ⅱ-11 式典等の関連事業実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・記念式典開催、ポプラ植樹、芸術鑑賞会、高山デンバー文化交流プロジェクト海外派遣、記念誌の作成 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で活躍する先輩方の多さを認識。在校生の自己有用感の醸成につながった ▲周年事業実施方法の伝承 	
	新聞等の報道機関や、リーフレットを活用した多様な広報活動	14	施策Ⅱ-14 新聞等の掲載数	<ul style="list-style-type: none"> ・学校広報紙T-magazineやリーフレットを用いた広報活動の実施 ・壁新聞「活力ある高工」の作成、中学校配付 ・公共団体とのものづくり協力 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞掲載数は増加 ○広報掲載を見た他者による声かけが自信や励みとなった生徒増 ▲近隣住民に向けた学校広報 	
	働き方改革の意識向上と働きやすい職場環境の整備	27	施策Ⅳ-27 時間外在勤の減少 環境改善件数	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外在勤等時間の多い先生方に管理職から毎月聞き取り実施 ・生徒・保護者と教員間の連絡システム「すぐる」の積極活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○状況把握と業務の平準化につながった ○連絡の徹底、集計作業時間の短縮 ▲諸活動の活発化により時間外在勤等時間45時間越えについては昨年比増 	
学習指導	課題解決策を多面的・多角的に分析、検討、提案できる能力のための、基礎的な知識・技能の習得	4	施策Ⅰ-4 スタディーサプリ活用状況 授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識技能の習得のためのスタディーサプリの授業内での活用(数学等)、長期休暇課題としての活用等(英数国) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○わからないところは質問したり調べると答える生徒増(授業アンケート) ▲学習アプリの校内活用体制について更なるブラッシュアップを実施 	B
	学習支援サービスやステップアップ講座、ハイレベル講座等の個別最適な学習の実施	9	施策Ⅱ-9 到達度テスト状況 授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディーサプリの資格試験対策としての使用、進学補習の自主課題としての活用 ・入学後初期対応で開講したステップアップ講座 ・少人数、習熟度別授業の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○公務員志望者支援や進学希望者支援で生徒の進路実現の助けとなった。 ○既習内容の理解をサポート(生徒の声) ○授業内容の理解度向上(授業アンケート) 	
	課題研究を中心とする、地域と連携・協働した探究活動の推進	4	施策Ⅰ-4 卒業作品展アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の授業においてSDGsを意識したテーマで探究学習を実施 ・部活動(工業部)において地域と連携し商店街発展に寄与すべく探究活動を実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○PDCAサイクルに従い学びを進め、生徒が主体となってより良いものづくりを目指した(課題研究) ○地域からの連携教育活動の申出増加 	
	公開授業・研究授業・職員研修の充実と、指導と評価の一体化等による学習・指導方法改善の推進	8	施策Ⅱ-8 研修回数や参加状況 授業アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間(年2回)、経年研修を主とする研究授業、多くの職員研修を実施 ・学習指導委員会で学習指導上の課題を教職員で共有し対応 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○より良い指導方法を探るべく職員研修をR5年度よりも多く行った ○教員の困り感を共有して全校で環境改善や生徒の学習支援にあたった ▲全授業における授業アンケートの実施 	
生徒指導	挨拶活動、集団行動、身だしなみ自己チェック等による自己指導能力の育成	3	施策Ⅰ-3 実施回数・状況 アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導の実施 ・身だしなみチェック「高工フォーマルデー」の実施 ・生徒心得の改定 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の気づきと主体性を育み身だしなみ確認の場を設定(職員間で話合いを重ねる共通理解) 	B
	演劇ワークショップ、防犯講話等の外部指導者の活用	1	施策Ⅰ-1 実施回数 アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇ワークショップ実施(県事業) ・防犯講話実施(高山警察署出前講座) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○演劇ワークショップを1年生クラス単位で春季に各3回実施し、適切なエンカウンター機会を提供(生徒・教員の声) 	
	地域や異校種と連携・協働した活動の推進	1	施策Ⅰ-1 交通安全、環境美化 挨拶、異校種交流	<ul style="list-style-type: none"> ・異校種交流の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○MSJ「ガーズ」による、地域の小学校と連携した挨拶運動の実施 ○飛騨特別支援学校日赤分校との交流 	
	スクールカウンセラーや外部機関と連携・協働した支援	3	施策Ⅰ-3 実施回数、参加人数 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止等検討委員会の確実な実施 ・個別の教育支援計画、面談週間の活用 ・専門家との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○共感的、組織的な生徒支援の実施 ○SC、S相、医療との連携を実施 ▲通級(他校型)、センター的機能(特支)との連携 	
進路指導	キャリアパスポートを活用した能力や適性理解支援	13	施策Ⅱ-13 キャリアパスポート活用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高工キャリアパスポートの作成と活用 ・適性検査、模擬試験の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○適性検査結果、模試の記録、進路行事の記録等を集積し、自身をメタ認知できる資料を作成 	B
	地域の産業界や関係機関と連携した進路支援の実施	13	施策Ⅱ-13 関連活動実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材を活用した技能教育 ・インターンシップの実施 ・産業界実習の実施(3年建築(7/7)科) ・過去最高の求人社数、求人人数 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○業界団体の講師による出前授業、施設見学の実施 ○2年生全員が地域の企業様の協力の下、就業を体験(2日間) ○求人社数1115件、求人人数2127名 	
	生徒会活動や部活動、検定や高度な資格取得、体験型研修への積極的な参加啓発	10	施策Ⅱ-10 部活動加入状況 資格取得状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な資格取得のための補習等実施 ・年度当初の部活動ガイダンスと担任による丁寧な声掛けによる高い部活動加入率 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○難関資格取得(危険物取扱者甲種、電気工事士1種)や、高い合格率(二級建築施工管理技士補(合格率83%)) ○部活動加入率(1年:93%、2年:87%、3年:78%) ○ビジネスグランプリベスト100選出 ○県ものづくりコンテスト3部門入選(東海大会出場(旋盤部門)) 	
	進学指導の充実	10	施策Ⅱ-10 ガイダンス等参加状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援に関する個別支援(ハイレベル講座、模擬面接) ・卒業生と語る会の実施 ・企業見学会の設定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○高いST比に裏付けされた個に応じた指導の実現 ○ロールモデルを知ることにより内的意識を醸成 ○地元企業見学会(1・2年生(高山市・飛騨市))進路先見学会(3年生)を実施 ▲難関大学進学指導 	

<p>来年度に向けての改善方策等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産業の担い手育成を目的とした県の研究指定事業を活用し、外部と連携した協働的な活動の充実 ・授業改善の仕掛けづくり (ICTの活用、スタディーサプリの活用) ・生徒指導、支援の在り方やその目的の全職員による共有 ・進路作成書類等の作成・検案における更なるDX化 ・公衆衛生意識の向上と体調の自己管理能力の育成 ・新たな魅力を発信するカリキュラムの研究 	<p>実施日: 令和7年1月31日</p> <p>学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究やサテライトキャンパス等で生徒自身が主体となった学びが行われており、素晴らしい。 ・志高く最先端技術を学ぶ生徒の為に、必要に応じて外部人材をとり入れた教育をさらに充実させてほしい。 ・年度目標の達成度の指標として、数値化できるところは年度当初に目標値を具体的に設定して臨むとよい。 ・地域総出で挨拶運動に取り組み成果をあげている。今後も継続して挨拶の大切さを指導してほしい。 ・起業についての学びを取り入れ、将来の地域産業の発展に繋げてほしい。 ・早期離職を防ぐために、生徒が主体となったキャリア教育の実現に向けてさらに改革を進めてほしい。 ・折に触れ地元で活躍する企業とその業務内容等について紹介し、選択のきっかけを作してほしい。 	<p>実施日: 令和7年2月1日</p>
---	--	----------------------